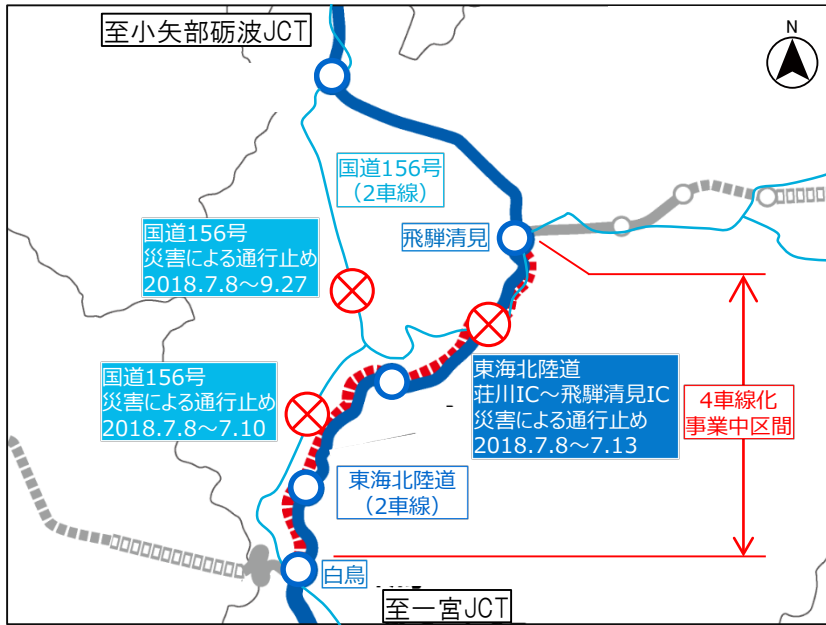


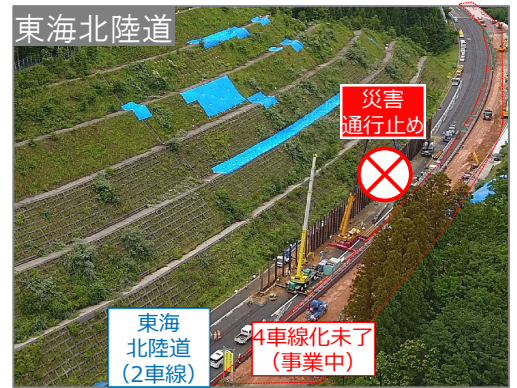
[整備効果②]機能強化による災害時のリダンダンシーの確保

- 暫定2車線区間では、災害発生時に復旧工事に伴う通行止めが必要になります。
- 4車線区間では、車線の有効活用により、交通を確保しながら復旧工事が可能です。
- 4車線化による道路機能の強化により、並行する一般道路の代替路として機能し、リダンダンシーが確保されます。

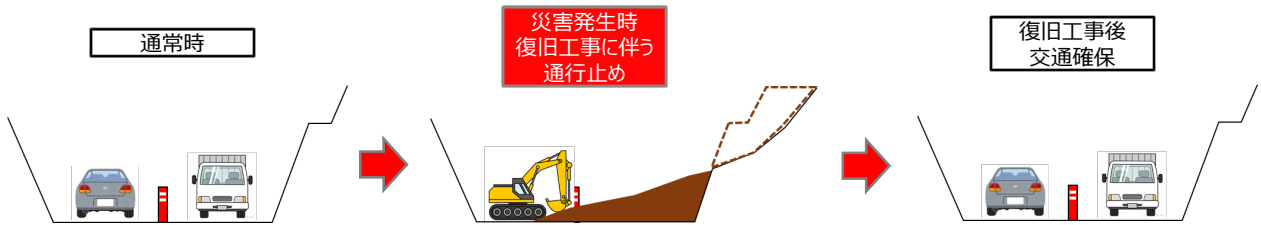
■暫定2車線区間における災害による通行止め事例（2018年7月）



○「平成30年7月豪雨」により、東海北陸道および並行する一般国道156号などで、災害による通行止めが発生しました。

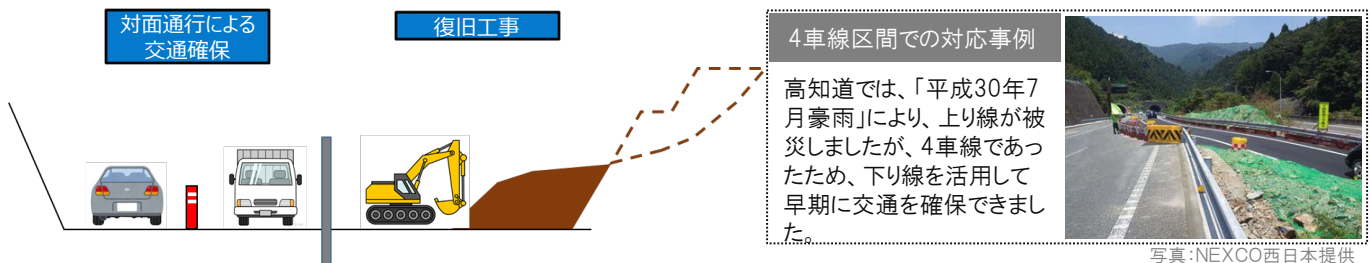


○暫定2車線区間では、災害発生時に復旧工事に伴う通行止めが必要になります。



■4車線区間における災害復旧工事

○4車線区間では、対面通行などにより交通を確保しながら、復旧工事が可能となります。



⇒東海北陸道を4車線化することで道路機能が強化され、国道156号など並行する一般国道の代替路として機能し、リダンダンシーが確保されます。